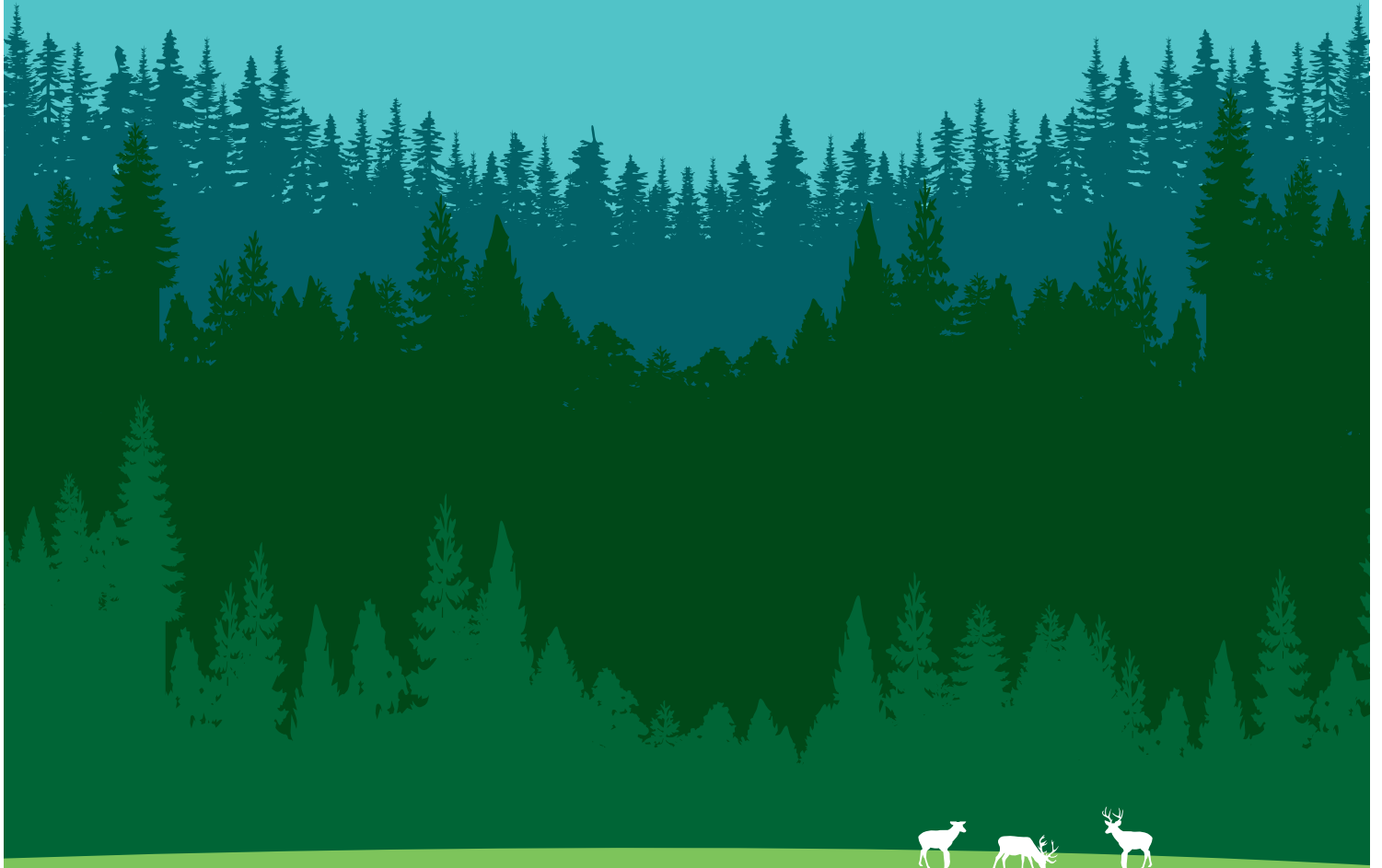




岐阜大学
地域科学部・地域科学研究科
Gifu University
Faculty of Regional Studies

FOREST 2026



contents

■ 学部長からのメッセージ	1
学部案内	2
学科紹介	3
カリキュラムの概要	4
授業科目一覧	5
社会活動演習	6
地域学実習	7
専門セミナー	8
研究科案内	12
専攻紹介	13
カリキュラムの概要と授業科目一覧	14
■ 進学・就職	15
■ 地域科学部の活動と成果	18



～学部長からのメッセージ～

地域の深淵から世界を問い直す

岐阜大学地域科学部の門を叩こうとしている皆さん、こんにちは。

本学部は、日本の地域系学部の先駆的な存在として、1996年に誕生しました。私たちが創設以来大切にしてきたのは、既存の学問の枠にとらわれず、複雑化する社会課題に対して多角的な視点からアプローチする「知の最前線」であることです。

現代において「地域」について学ぶ、あるいは「地域」という視点から社会について考える意義は、どういうところにあるでしょうか。私なりに考えてきたことを述べてみますと、それは「ナショナル（国家レベル）」な価値観を相対化し、世界を重層的に捉え直すきっかけを与えてくれるという点です。

皆さんは「地域」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。地元のまちづくりや伝統文化を想像するかもしれません。もちろんそれも大切な要素ですが、私たちの捉える「地域」はもっと広く、深い概念です。「地域」には、顔の見える関係が育まれているコミュニティから、行政単位である自治体、さらにはアジアやEUといった国境を超える圏域も含まれます。近代とは、政治や経済の仕組みをナショナルな枠組みを基軸に形成しようとする志向を持つ時代と言えますが、現代社会が直面する地球環境問題や急速な少子高齢化などの新たな諸問題は、そうした枠組みの限界を露呈させています。そうした限界を乗り越えようとしていくときに、「地域」がカギになるのではないかと多くの方が考え始めています。地域科学部は、そうした試みの最先端でありたいと考えています。

こうした諸問題を解決するには、一つの専門領域に閉じこもるのではなく、経済学、法学、文学、心理学から物理学や生物学に至るまで、文理の垣根を超えた学際的な視点が不可欠です。本学部は、特定の専門教育に限定せず、幅広い「学問知」を学ぶことが本物の教養を育むと考え、そのためのカリキュラムを用意しています。

こうした学び方の姿勢を獲得してもらうために、私たちは徹底した少人数教育を実践しています。2年生の後半から卒業まで続く「専門セミナー」は、1学年あたり4人という少人数制を堅持しています。教員と学生の距離が非常に近く、一人ひとりが丁寧な手ほどきを受けながら、自身の研究を深めることができます。また、教室での理論学習にとどまらず、社会の現場へ飛び出すことも大切にしています。「社会活動演習」や「地域学実習」、そして「国際教養プログラム」による海外留学など、フィールドワークを通じて現実の制約や課題を肌で感じ、再び理論に立ち返ってクリティカルに考え抜く。この試行錯誤のプロセスが、常識に縛られない新しい解決策を提案できる創造的な思考力を養います。

高校生の皆さんの中には、「まだ将来の目標がはっきりしていない」と不安を感じている人もいるでしょう。地域科学部は、目標が明確な人はもちろん、自分の進路に迷っている人も大歓迎します。本学部のカリキュラムは、学生自身の興味に合わせて選択できる自由度の高いものです。例えば、政策学科で経済を学びながら、哲学のセミナーで卒業論文を書くといった「寄り道」も可能です。いろいろな分野に目移りし、迷い、回り道をしながら研究を深めていく。その過程で主体的に進路を選び取っていくことも、立派な「学び方の姿勢」の一つです。

卒業生の多くは公務員や地元企業などで活躍していますが、そこで求められているのは、どの分野を学んだかに関わらず、「しっかり考えることができる思考力」です。本学部で身につけた「多種多様な観点から総合的に捉える力」は、どのような業界に進んでも高く評価されるでしょう。事務職員による熱心な学生支援体制も整っています。地域社会に対して、そして自分自身の人生に対して、新しい「遊び方」や「解決策」を提案できる人になりたい。そんな熱意、あるいは切実な「迷い」を持った皆さんを待っています。私たちと共に新しい知の冒険を始めましょう。



岐阜大学地域科学部長
大学院地域科学研究科長

山本 公徳

地域科学部

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

■求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。

一定の分野に対する専門性を高めるため、また、学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して学ぶことができるように、学習の指針として4つの履修系統（地域政策系統、環境政策系統、生活・社会系統、人間・文化系統）を提示します。これらの4つの履修系統に即した学習を促すことにより、地域の個別課題に対する分析力および対応力を育てます。また、多文化共生の社会で活躍できるようにするために、複数の言語を使った学修を行い、国際教養プログラムなどで国際的な視野や多様な地域の文化への関心を培います。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本学部HPをご覧ください）

学科紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすくして平和で文化的な地域社会を創出できる人材の育成を目的とした、日本で初めて「地域」という名称を冠した学部です。学ぶ範囲は広くかつ多様ですが、2年前学期からは地域政策学科、または地域文化学科に所属し、専門性を高めて行きます。中心的に学びを深める4つの履修系統に軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていきますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。



地域政策学科

主に社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつより良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

地域政策系統

現代の地域が抱える政策課題は多様化しており、一つの専門的能力だけでは対応しきれなくなっています。本系統では、そうした政策課題への多様なアプローチを重視し、経済学・地理学・法学などの専門分野をバランス良く配置すると同時に、フィールドワークにも力を入れています。それらを通じて、地域を総合的に理解する視野を広げるとともに、地域産業振興・まちづくり・自治政策などに実践的に取り組む人材を育成することを狙いとしています。

環境政策系統

本履修系統では、物理学系、化学系、生物学系、都市・建築系などの理科系の基盤的な学力を身につけます。自然界の原理と法則、自然・地球環境、生活・都市環境を、数理的考察、フィールド調査、物理学や化学の実験、コンピュータシミュレーション等を通じて深く理解したうえで、科学的知識や技術を環境政策へ生かすことができる人材を育成する教育内容を、体系的に構成しています。

地域文化学科

主に人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、及び歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し把握する教育研究をおこない、人間社会に関する確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

生活・社会系統

大きく変貌をとげようとしている地域社会の現実及び地域社会の発展に関する課題を見出すためには、そこで暮らす人々の生活実態を深くとらえることが求められます。本履修系統では、社会調査や実習を通して地域住民と交流するとともに、社会学・人類学・歴史学などの専門的知識を学び、現在およびこれからのコミュニティ創造のための担い手を育成する教育内容を構成しています。

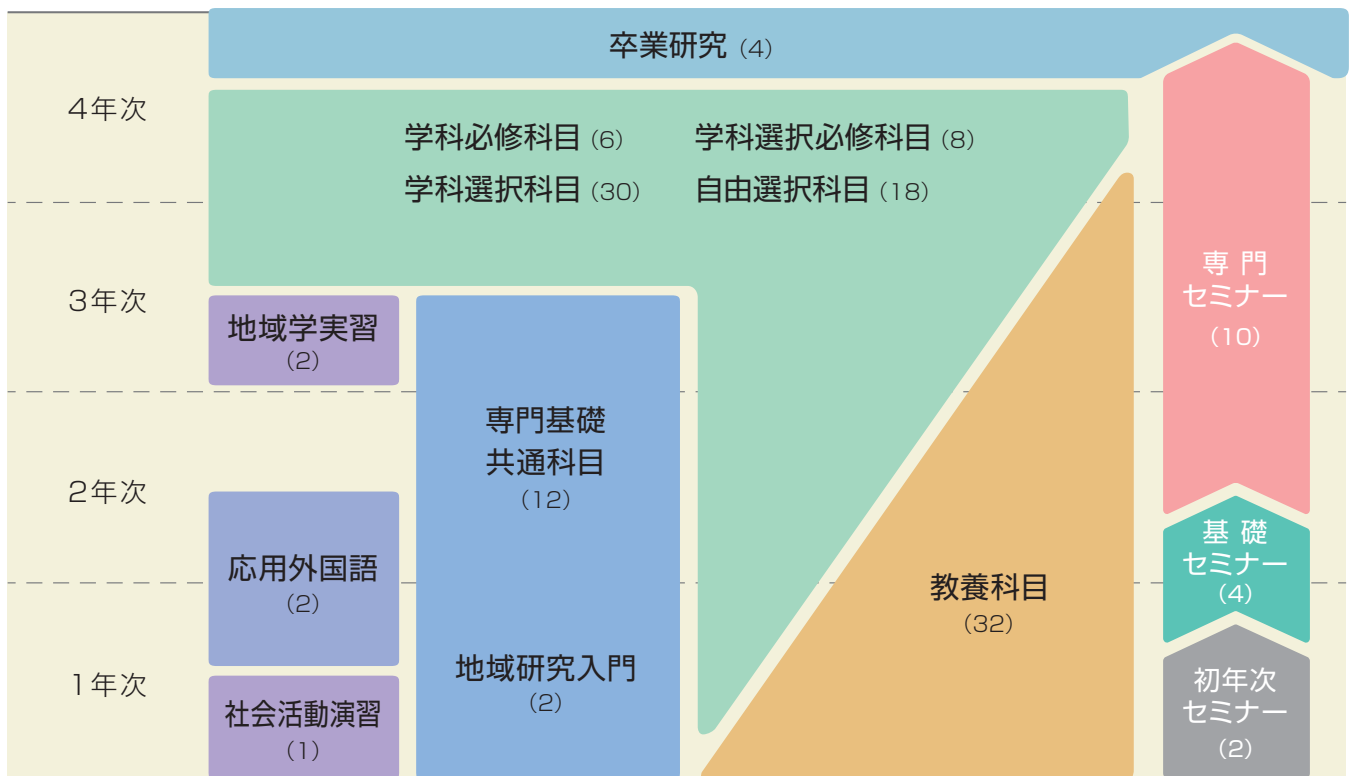
人間・文化系統

地域コミュニティは、独自の伝統文化を継承し発展させると同時に、他の社会や文化と積極的に交流することによって、さらなる活力を生み出す可能性を秘めています。本履修系統は、この視点にもとづいて、グローバル化の時代にふさわしく、多様な言語・思想・文化を学ぶことで、地域文化の創造的な担い手を育成する教育内容を構成しています。

カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実に即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

地域科学部でどんなふうに学ぶんだろう？



()は卒業に必要な修得単位数

国際教養プログラムとは？

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティおよびに異文化に対する深い理解が必要となります。本プログラムでは、一年間の海外留学や文理横断的な知識の習得などを通じて、地域社会と国際社会の双方で活躍できる能力を育成していきます。

具体的には右表に示すように、外国語運用能力を高める科目群Aに加え、科目群B,Cの人文・社会及び自然科学の諸分野の学習を通して幅広い教養的学識を身につけます。

- 国際教養プログラムには地域科学部の両学科の学生が参加できます。
- 日本人学生は、海外の学術交流協定大学へ一年間の留学（原則として2年生後学期～3年生前学期）を必須としています。留学期間を含めて、4年間で卒業が可能なプログラムとなっています。
- 留学のためには、協定大学の求める語学力水準(TOEFL、IELTSなど)に達していることが求められます。留学の申請は、1年生の9月頃に行います。
- これまでにプログラムに参加し留学した学生は、2017年度からのべ59名に上ります。

授業科目一覽

地域科学部

学科		地域政策学科			地域文化学科				
履修系統		地域政策	環境政策		生活・社会		人間・文化		
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養)			地域研究入門	社会活動演習	応用外国語	基礎セミナー	
	専門基礎共通科目	A群(理系科目)	記述統計学	微分積分I・II	線形代数I・II	物理学I	化学I		
	B群(文系科目)	地理学 教育・心理学	政治経済学 近・現代史	現代経済学 哲学概論	法学 文学概論	現代社会概論 言語学概論			
専門科目	学科必修	地方行政論	地域づくり論	推測統計学	社会調査法			ジェンダー論	言語文化論
	学科選択必修	計量経済学 日本経済論 地域経済論 経営学 憲法 行政法 民法 行政学 マネジメント特講	物理学II 環境物理学I 化学実験 都市環境工学 環境調査法		地域社会学 地域史 メディア論 文化人類学 人間発達概論	社会哲学 日本文化論 ヨーロッパ文化論 アメリカ文化論 アジア文化論 社会言語学			
	学科選択	国際経済論 比較経済体制論 地域産業論 経済政策 社会政策論 労働経済学 会計学 マーケティング論 金融論 環境経済学 地方自治法 労働法 現代政治学 政治過程論 財政学 地方財政論 刑法 裁判法 環境法 地域創生論	応用解析学 数理計画法 物理学III 環境物理学II 環境物理学III 化学演習 物理化学 生物学I 植物生態学 動物生態学 環境保全論I 環境保全論II システム工学 居住環境と心理 地域解析学 地域創生論		障害者福祉論 教育と社会論 社会福祉学 生活支援論 ジャーナリズム論 労働社会学 インターネット・リスク社会論 ジェンダー史 コミュニケーション論 現代心理論 地域創生論	言語と社会入門 口頭表現技法論 近・現代思想論 倫理学 言語哲学 言語理解論 文献学 文化思想史 文化解釈論 表象文化論 文学批評論 言語意味論 言語生活論 博物館学 地域創生論			
	学部共通	地域学実習			専門セミナー	卒業研究	地域科学特講		

※上記科目については、一部修正する可能性があります。

		科目群A	科目群B	科目群C		
専門基礎科目	応用外国語	応用外国語I/II 応用外国語A/B				
	基礎セミナー	言語と社会A/B				
	専門基礎共通		物理学I 哲学概論	記述統計学 線形代数I	微分積分I	
専門科目	地域政策学科		日本経済論 憲法 化学実験	地方行政論 環境調査法 生物学I 居住環境と心理	民法 地域産業論 社会政策論	物理学II 化学演習 推測統計学
	地域文化学科	言語と社会入門 口頭表現技法論	アメリカ文化論 近・現代思想論 言語意味論 文化人類学	ジェンダー論 言語理解論 言語文化論	社会哲学 社会調査法 アジア文化論	社会言語学 メディア論 ヨーロッパ文化論

社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜県域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の8つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。



2026年度実施プログラム(指導担当教員)

- A : 犯罪加害者・被害者の社会的包摂・排除を考える(三谷 晋)
- B : 中山間地域における地域づくり(南出 吉祥①)
- C : 「子どもの権利」を推進する市民活動(南出 吉祥②)
- D : SNSを利用して地域振興を考える(合掌 顕)
- E : 市民ラジオ番組の制作&番組企画・出演(野原 仁)
- F : 地域における多文化共生:国際交流イベントへの参画(小林 亜由美)
- G : 子供の自然体験教室と植林体験活動(府川 純一郎)
- H : 地域の子育て支援に関する実態と発達について学ぶ(峰尾 菜生子)

学生の声

2024年度入学 藤巻 陽士さん

社会活動演習では、2回に分けて岐阜市内で実習を行いました。

まず、1回目の実習では、長良川の近くにある川原町と呼ばれる場所を訪れ、その建築や街並みのデザインの観察を行い、そこに見られる工夫や改善点などについての検討を行いました。この実習では近代的な施設を伝統的な景観に溶け込ませる工夫が見えたとともに、今後、より人を呼び込むために必要な改善点についても自分なりに考えを深めることが出来ました。

また、この実習の際には、同じ実習を行なった同級生と一緒に町屋をリフォームしたカフェに行くなどして親睦を深めることが出来たと感じています。

2回目はJR岐阜駅前の広場を利用する人々の行動を観察し、その特徴をスケッチを用いて記録を行いました。普段は大学へ向かうためのバス乗り場としてのみ利用することが多く、それまではその周囲を注意深く観察することはあまりなかったのですが、実習を通して、岐阜駅前の広場がバス利用に限らず、信長像の前での写真撮影をはじめとした多様な使われ方がされているということを目で確かめることが出来ました。



地域学実習

地域学実習は、3年生の前学期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の8プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。



岐阜周辺における地域づくりの比較調査風景

2026年度実施プログラム(指導担当教員)

- 岐阜圏域を中心とした経営・労働の実態(伊原 亮司/小林 啓祐)
- 地域物流の基本、課題、取組みについての考察(應 江 黔)
- 東海圏の地場産業の実態調査(大澤 圭吾)
- 地域社会とコンサートホールの役割
ーサラマンカホールを通じて街づくりを考えるー(小西 豊)
- 「身近なモノ」を理解する(十二村 佳樹)
- 岐阜県における外国人労働者の労働と生活の課題、
その支援について(鈴木 力)
- 地域おこし協力隊を中心とした移住者の活動から
考える地域のあり方(堀江 未央)
- 歴史資料の整理と保存に関する実習(水林 純)



下呂市飛騨金山菅田の昔と今を知る

実習の成果は、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。

学生の声

2023年度入学 池田 真由子さん

私は「世界三大毛織物産地」の一つとして知られる尾州産地に赴き、産地で働く人々にインタビュー調査・アンケート調査を行ってその政策的可能性を考えるという地域学実習に参加しました。講義では文献の輪読を通して、アンケート調査に関する基礎知識や他地域での地域産業政策立案の方法について学びました。その後班ごとの調査項目を考え、自分たちで企業様にアポイントメントをとって実際にインタビュー調査を行いました。調査の中で自らが問題意識をもって企業の方と対話をしたり、インタビューの結果を丁寧に分析しながら今後の尾州産地の政策的可能性について考察したりすることで、自らの思考力や分析力が向上したように思います。また自分たちで調査を行った経験を通して、インタビュー調査・アンケート調査の難しさを体感することができました。普段あまり深く知ることができない地場産業の実態や、尾州の技術の高さ・魅力を知ることができ、貴重な経験をする事ができたと感じています。



専門セミナー

2年次後学期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。少人数で開講され、各教員それぞれの専門分野に関連する領域について、学んでいきます。学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の後学期まで継続して、行われ、卒業研究も行っていきます。

各専門分野によって、運営形式はこの専門セミナーでの学びを基に様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を行うため、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多種多様にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

■ 河合 壘セミナー(労働法、民事法)

本セミナーでは、労働の法や政策に関する様々な論点をテーマに、皆で検討しています。通常時には、実際の労働事件(解雇、労働災害、給与の引下げ、経歴詐称などに関する裁判例)や、女性活躍推進、ジョブ型雇用、ワークライフバランスなどの政策に関して、文献を分担して読んだり、テーマ報告をしたり、報告者以外はそれに対する質問をあらかじめ用意して議論したり…といった活動をしています。またこのセミナーでは年間行事として、学部内の法学・政治学セミナーとの合同報告会(3月頃)、名城・中京・愛知・名古屋学院大との合同報告会(9月頃)などがあります。

法学という「絶対的な正義・正解」があり、「間違っている人を断罪する」というイメージが強いかもしれませんが、労働の分野については、そう単純にはいかないことも多いです。職場でのトラブルは人間関係のからみで「どっちもどっち」ということも少なくないですし、労働政策も、誰かにとってはよいことでも、他の誰かにはマイナスということもあります(ネットで炎上している「子持ち様」問題などは、まさにその典型でしょう)。絶対的な正義・正解とされているもの、誰も反論しない(できない)ものほど、実は「本当にそう言えるのか、なぜそう言えるのか」が案外あやふやだったりするものです。

いきなり「絶対的な正義・正解がない」といわれても違和感を持ってしまうかもしれませんが、でも結論はどうであれ、人間や社会を見据えながら「なぜそう言えるのか」を考えぬくことが大学での学びです。そうした思考訓練は、社会に出てから必ず役に立ちます。私も皆さんと色々な角度から一緒に悩み、考えたいと思っています。



■ 神谷 宗明セミナー(物性物理学)

日常生活で私たちが目にするような自然現象は、原理的には、現代物理学の基本原則、主に物質を構成する電子と原子核の運動を考えることにより記述する事ができます。しかしながら、この方程式を完全に解析的に解いて完全な物理現象の予測や理解をすることはできません。

そこで私たちは、興味のある自然系を我々が解くことができるモデルに切り出し、コンピュータ(たまにスーパーコンピュータ)を使って解くという研究を行っています。限られた資源の中で現象を説明するのに必要な相互作用と計算精度を工夫し、物理的な視点でさまざまな角度からモデル化された数式と結果を検討することによって、さまざまな自然現象が説明され、また自然の奥深さを思い知ることが私たちの研究の面白さの一つだと思っています。

私たちの専門セミナーでは、日常生活の背景にある物理法則を、プログラミングなどを通して理解すると同時に、自由な雰囲気での議論も大事にして楽しく勉強しています。



■ 牧 秀樹セミナー(言語学)

私の専門は、言語学で、Noam Chomskyが1950年代に提唱した生成文法の観点から、人間言語の統語現象について調査しています。本セミナーには、言語に興味がある学生が、学部生、大学院生、研究生、別のセミナーの学生、別の学部の学生を問わず、参加しています。とりわけ、留学生が多いので、これまで、アゼルバイジャン語、イ語、インドネシア語、ウイグル語、ウズベク語、カザフ語、韓国語、シベ語、ジンポー語、チベット語、中国語、土家語、ナシ語、プイ語、ベンガル語、ミャンマー語、モンゴル語などの調査を進めてきました。また、私自身は、アイルランド語、延辺語、スペイン語、セラヤリーズ語、日本語(現代語・古語)、ビジ語、モンゴル語などを調査してきました。また、言語教育にも興味があり、最小英語テスト(MET)、最小韓国語テスト(MKT)、最小中国語テスト(MCT)、最小ドイツ語テスト(MGT)、最小日本語テスト(MJT)、最小フランス語テスト(MFT)の開発も行っています。

本セミナーでは、私が定義する「哲学」を心を持って進んでいただいています。哲学: 分からないことがあった時に、分かりたいなと思う気持ち。そして、デカルトに従い、当然と思われることも一旦疑ってみるようになっています。

学生たちは、新たな言語事実を発見しては、専門学会に要旨を投稿し、学会で口頭発表することを目標にしています。これまで、国際学会で何人も発表しています。卒業論文・修士論文は、英語で執筆していただいています。学生は、私以上にやる気があり、いつも彼らに背を押されて、励まされています。学生は、私にとって、一番大切です。



■ 水林 純セミナー(歴史学、日本史)

私の専攻は歴史学です。「歴史を学ぶ」と聞いて、皆さんは何を思いますか?「暗記が得意じゃなきゃ付いていけないのかな?」とか、「マニアックな人向けで、自分には縁がなさそうだな」と感じる人も多いでしょうか。意外に思われるかも知れませんが、私は、「歴史を学ぶ」こととは、たとえて言うなら「旅」のようなものだと考えています。皆さんのなかに、こういう経験をもつ人はいないでしょうか。旅先で見知らぬ異邦人と出会い、自分とその人とのあまりの違いにショックを受けたという経験を。あるいは、その人との出会いを通じて、「自分はいったい何者なのか」という問いを逆に突きつけられたという経験を…。

実は、^{タイム・トラベル}歴史研究にも似たところがあるのです。私たちは、過去の人が残した様々な足跡(「史料」といいます)にふれる過程で、自分とは生き方や考え方の異なる「他者」がこの世界に多く存在した事実を知ることができます。また、それを通じて、自分が当たり前だと思っていたことが、実は当たり前でないという事実にもふれることになります。すなわち、「他者」を鏡にすることで、自分という存在を突き放して見るということですが、それは何も、「歴史好き」の人や、暗記が得意な人にだけ許される特権ではありません。

私のセミナーでは、日本の歴史、それも中世から近世への移り変わりの時期(戦国時代とその前後といえ、イメージしやすいでしょうか)に焦点を当て、学修を進めていきます。ただし、この時代に特に関心があるという人でなくても構いません。今自分の置かれている状況に違和感があり、その正体を突き詰めたいと思う人、今日までの自分を相対化し、これまでとは違う未来を模索したいと思う人などなど…。ともに過去への旅に出かけてみませんか?



犬鳴山七宝瀧寺参道入口(筆者撮影)

*七宝瀧寺は、中世荘園の故地として有名な和泉国日根荘遺跡(大阪府泉佐野市)の一部です。フィールド・ワークも、歴史を学ぶ上での重要な方法の一つです。



学生の声

2023年度入学 大塚 壮馬さん

私は峰尾ゼミで心理学を学んでいます。ゼミでは、文献の輪読や、学生各自の研究関心に基づいた論文の紹介・議論を中心に活動しています。加えて、複数人で一つの研究に取り組む共同研究や、先行研究の調査・要約・分析を行うレビュー論文の作成など、卒業論文に向けた実践的な研究にも力を入れています。私自身の研究テーマは「かわいい」の個人差です。日本では様々な意味がある「かわいい」について着目し、それらの評価に個人差が出る要因を調べています。ゼミのメンバーの研究関心は多岐にわたり、反抗期やSNSと先延ばし行動といったテーマのほか、スポーツやオタク文化と心理学を結びつけた研究に取り組む人もいます。心理学の魅力は、扱えるテーマの幅広さにあると感じています。文化、教育、経済、環境など、さまざまな分野と心理学を結びつけて考えることができます。人のいるところに心理学はありますので、自分の興味関心に応じて研究を深めやすい学問だと考えています。



学生の声

2024年度入学 奥村 心咲さん

私は三谷ゼミで法学を学んでいます。三谷ゼミは、行政法や環境法、地方自治法など多岐にわたる法学分野について学びを深めるセミナーです。普段は、各自が興味関心のある社会の問題に関する判例を取り上げ、判例評釈や関連分野の先行研究を読み、要約し考察することに取り組んでいます。セミナーの時間では、先生やゼミ生のメンバーから、疑問や論点などを議論する活動をしています。

私は、法学的な知識や理解を得ることと、地域や社会のしくみ・問題に対して自らの考えを持てるようになることを目標にしています。2年後期には、障害者雇用や合理的配慮というテーマに関心を持ち取り組んできました。メンバーの問題意識がある分野が異なるので、初めて触れる考え方も多く様々な視点を得られると感じています。

実際に取り組みながら法的な考え方を身につけていく形でセミナーが進むので、法学初心者の私には難しく感じることも多いです。しかし、まだまだ浅い見識を深め、関心のある分野を探りながらより検討できるよう、この先も精進していきます。



地域科学研究科

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■ 教育理念・目標

社会、人間のあり方及び自然に関する知見を有し、深い専門性と実践的、創造性豊かな能力によって、自然と調和した地域社会の基盤形成に寄与する人の育成が本研究科の教育目標です。

■ 求める学生像

地域社会、自然環境、人間社会のあり方を探究して、本質的な問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲と、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追究しようとする意識を持っていることを望みます。具体的には、次のような人を期待しています。

- ・ これまでの知識や経験をもとに、さらなる学問的専門性を身につけ、地域や社会への貢献を考える人
- ・ 自治体、福祉団体、商工会議所などの文化政策・行政政策担当者として活躍しようとしている人
- ・ 地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・ まちづくり等の地域活動組織で活躍しようとしている人
- ・ さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・ 国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ・ 人文科学・社会科学・自然科学及びそれらの融合領域分野を幅広く学びながら自然と調和した地域社会について、専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 社会生活と人間文化について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 地域社会の経済、行政、自然、生活、思想や文化を研究する授業科目を履修することによって、地域社会や人間文化の諸課題を総合的な視点から追究する新しい地域研究の方法を修得します。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた人に修士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本研究科HPをご覧ください）

専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましよう。



地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

● 経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

● 行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

● 自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

● 社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしなが、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

● 人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしなが、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。

カリキュラムの概要

- **特別演習 I・II・III・IV** : 指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究** : 指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **選択必修科目** : 地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目** : 各教育研究領域ごとに3~8の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜協立大学)の単位も認められます。

授業科目一覧

専攻	地 域 政 策			地 域 文 化		
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化	
選択必修科目	理論経済学特論 比較経済体制論特論	行政法特論 行政学特論	環境物理学特論 環境心理学特論	メディア論特論 生活指導論特論	価値哲学特論 表象文化論特論	
自由選択科目	計量経済学特論 地域産業特論 中小企業論特論	憲法特論 社会政策特論 地方財政論特論 民事法特論	保全生態学特論 数理システム特論 数理化特論 環境計算法学特論 都市環境工学特論 数理物理学特論 応用生態特論	歴史学特論 現代史特論 文化人類学特論 社会学特論	生命倫理学特論 日本近代文学特論 文化解釈論特論 社会言語学特論	心理学特論 言語文化論特論 言語教育学特論 中国語特論
地域科学特別講義 I・II・III・IV・V・VI						
特別演習 I・II・III・IV			特別研究			

学生の声

2025年度入学 青山 真里さん

私は、精神科病院でソーシャルワーカーをしています。働く中で抱いた違和感や経験を学問的に整理したいと思い大学院への進学を希望しました。研究テーマは、従来の援助関係観を哲学的に捉え直すという内容で、柴田和宏先生に指導していただいています。院生活が始まる前は、哲学の知識が十分でないことや、仕事や育児との両立ができるのか心配もありましたが、柴田先生の丁寧なご指導と、授業の時間等も配慮して下さることで過ごすことができます。また、研究科には人文や社会に関する幅広い授業があり、先生方や留学生も含め多角的な議論ができる環境です。それぞれの先生方の研究領域から、私の関心事項に関する知識や情報を下さったり、授業外で哲学書を一緒に読んで頂いたり、大変充実した日々を送ることができています。論文を書くことだけでなく、人として、職業人としても得られるものが多く入学して本当に良かったと実感しています。



進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、(1)公務員となる学生の割合が高いこと(2025年度卒業生では全就職決定者105名のうち52名(49.5%)、(2)地元企業への就職が多いこと、(3)金融・保険業、卸売業、小売業、製造業、情報通信業、運輸業等、多くの業種に幅広く就職していることが挙げられます。

このように卒業生たちがさまざまな業種に進む傾向にあることは、総合的・学際的な学部である本学部が目標とする学生教育(人文、社会、自然科学の多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的に捉えることのできる人材を育てる教育)のひとつの成果であるともいえます。

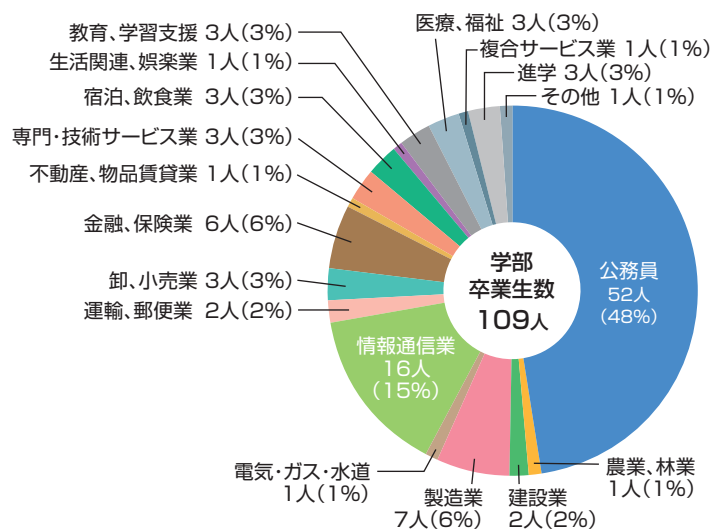
就職状況は他大学と比べても非常に良好といえます。就職不況の際にも本学部の就職状況は全国的にみても高い就職内定率を達成しており、ポテンシャルの高さを示してきました。就職内定率(就職希望者における決定者の割合)は2025年度卒業生では100%となっています(2021年度から2025年度の過去5年間を平均すると、卒業時の就職内定率は98.5%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、本学部の学生自身が熱意を持って就職活動に取り組んでいることがまず挙げられますが、そのほかにも、学部として学生の活動をサポートするために指導教員をはじめ、就職担当委員の配置によって学生からの相談に迅速かつきめ細やかに対応していること、大学全体のガイダンスとは別に学部独自の就職ガイダンスを実施していること(就職活動を経験した本学部学生の生の声が聴ける等)、数年に一度、卒業生が就職した主な企業に全教員が手分けして出向き、企業担当者から卒業生の仕事ぶりや採用状況を調査・検討していること、などの取り組みがなされています。さらに卒業後のサポートもしています(就職後のトラブルへの対応をしたり、転職や仕事上の悩み等の相談に応じたりしています)。

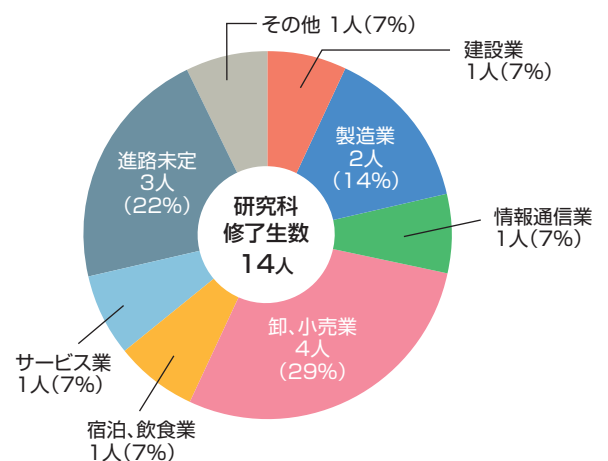
今後も、広い視野と知性を備えた地域を担う人材を育成し、自治体、企業、諸団体の期待に応えていきたいと考えています。

大学院の就職状況に関しては、2025年度は、修了生14名の中、就職希望者が13名おり、10名の就職が決まっています。

2025年度 進路状況(学部)



2025年度 進路状況(研究科)



進路

学部 2025年度卒業生進路状況

(2026年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

公務員(52)

法務省(2) 土岐市役所
厚生労働省(6) 可児市役所(2)
農林水産省 瑞浪市役所
国土交通省(3) 名古屋市役所(10)
国税庁(2) 豊橋市役所
岐阜県庁(8) 春日井市役所
三重県庁 刈谷市役所
岐阜市役所(7) 知立市役所
各務原市役所(2) 金沢市役所
山県市役所

情報通信業(16)

(株)NTTデータMHIシステムズ 日本システム開発(株)
(株)トヨタシステムズ ミクスネットワーク(株)
NDSインフォス(株) (株) エイエエスティ
(株)電算システム (株)アシスト
共立コンピューターサービス(株)(2) (株)スチームシップ
(株)セイノー情報サービス(2) (株)ネオ
東邦ガス情報システム(株) 一般財団法人岐阜県市町村行政情報センター

専門・技術サービス業(3)

一般財団法人日本品質保証機構
(株)イースリー
(株)テクノアルファ

宿泊、飲食業(3)

(株)共立メンテナンス
(株)近鉄・都ホテルズ
(株)松屋フーズホールディングス

建設業(2)

(株)トーエネック(2)

農業、林業(1)

岐阜県土地改良事業団体連合会

製造業(7)

ミズノテクニクス(株) 鍋屋バイテック(株)
大塚製薬(株) イビデン(株)
(株)三進製作所 (株)デンソー
(株)島津製作所

電気・ガス・水道(1)

中部電力ミライズ(株)

不動産、物品賃貸業(1)

(株)ヤマシタ

卸、小売業(3)

(株)ヨドバシカメラ
(株)ニトリホールディングス
(株)至柏

医療、福祉(3)

日本年金機構
社会福祉法人安城市社会福祉協議会
(株)ココロポート

生活関連、娯楽業(1)

(株)極楽湯

複合サービス業(1)

全国大学生生活協同組合連合会

金融、保険業(6)

(株)SBI新生銀行 (株)大垣共立銀行
(株)十六フィナンシャルグループ(3) 日本生命保険相互会社

進学(3)

岐阜大学大学院
自然科学技術研究科
名古屋大学大学院
環境学研究科
兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科

運輸、郵便業(2)

東海旅客鉄道(株) 名古屋鉄道(株)

教育、学習支援(3)

国立大学法人東海国立大学機構(2) 国立大学法人豊橋技術科学大学

卒業生数

109名

就職希望者数

105名

就職決定者数

105名

進学者数

3名

進路未定者数

0名

その他

1名

就職率

(就職決定者数 ÷ 就職希望者数)

100.0%

研究科 2025年度修了生進路状況

(2026年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

建設業(1)

中日本技工(株)

製造業(2)

増永眼鏡(株)
立花金属工業(株)

卸、小売業(4)

ダイワボウ情報システム(株)
ゲンキー(株)(2)
(株)ほていや

情報通信業(1)

日本SE(株)

宿泊、飲食業(1)

(株)東横イン

サービス業(1)

エコムカワムラ(株)

修了生数

14名

就職希望者数

13名

就職決定者数

10名

進学者数

0名

進路未定者数

3名

その他^{※1}

1名

就職率

(就職決定者数 ÷ 就職希望者数)

76.9%

※1 社会人修了生を含む

先輩たちの声

地域科学部 卒業生

2024年度卒業 石原 富士子さん



私は一度社会に出た後、社会を俯瞰して見つめ直すために地域科学部で学びました。現在は日本語パートナーズとしてインドネシアに派遣され、高校の日本語授業への参加や文化紹介を行っています。地域科学部では、真実の一つではなく、立場によって見え方が変わることを学び、柔軟に物事を見る姿勢を身につけたつもりでいました。しかし、それも日本の中での価値観の枠内にあったことに気づかされました。

例えば時間感覚です。授業開始時刻に先生はゆっくりお茶を飲み始め、イベント当日に雨が降ればみんなで談笑しながら雨が止むのを待っています。時間に追われる日本の生活と比べると、ここでは時間はゆったりと流れます。はじめは戸惑いましたがとても贅沢な時間だと感じるようになりました。

宗教についても多くの気づきがありました。イスラム教が多数を占める国ですが、国立の学校では様々な宗教の生徒がおり、それぞれの祈りの時間が尊重されています。伝統的な生活と資本主義が交じり合い、街をクリスマスの飾りが彩りその中でアザーンが響く光景は印象的でした。

また高校で最も多く受けた質問は、「日本にインド人が多いのはなぜか」というものです。背景にはSNSの誤情報がありました。一部の切り取られた情報が真実として捉えられている現状を目の当たりにしました。

ここで私が語る「インドネシア」も私の主観で見たものです。人口2億8千万人のうち私が見たほんの一部にすぎません。ネット社会だからこそ、自らの目で確かめることの価値を強く感じる日々を過ごしています。

地域科学研究科 修了生

2024年度修了 久保田 裕司さん



「*ゲスト講師として登壇」

大学院では、様々な方が学んでおられます。私の場合、60歳過ぎでの入学で、先生方は全員私よりも年下でした。中国人留学生の方も多かったのですが、私のように勤労学生もいました。中には、4年間の長期履修の許可を得た上、修士論文は2年間の休学期間に手掛けていた方もおられました。私は山口市副市長の職にあったため、4年間の長期履修の許可を得ていましたが、通学時間が片道15分足らずの場所にもあり、先生方の御配慮もあって、2年間で修了することができました。

私の入学動機は、まず職務上の必要性でした。これまで経験と勘を頼りに職務をこなしてきましたが、副市長という立場になって、改めて地域科学研究科にてアカデミックに検証してみる必要性を感じたわけです。そもそも「知る喜び」は人間の本能のような気もしますが、学力を人と比較されたり、興味のないことを覚えさせられたりして、勉強嫌いになった人も

多い気がします。私は、他人よりも好奇心や知識欲は強い方ですが、それは高齢化とともに強くなっていきました。ただ、元来「偏食・偏読」傾向の私は、読書、SNSや報道等による情報収集においても、自分好みに偏る「エコーチェンバー現象」に陥りやすい性分でもあります。そこで、単位修得のために、本来なら学ばないような学問も選択することになり、幅広い知識を習得できるであろうというのも入学動機の一つでした。

結果的に、そうした目的を達成できたことは無論、若い学生や先生方との交流の中で、様々な視点で思考する訓練もできましたし、中国人留学生との交流において、少しは国際感覚も養えられたような気もしています。日本の教育はインプットが多い気がしますが、社会人ではアウトプットが大切となります。地域科学研究科ではそうしたスキルの養成につながります。既に社会人として活躍し、活躍されていた方においても「学びたいときが学問適齢期」と言われます。是非リカレント教育を。

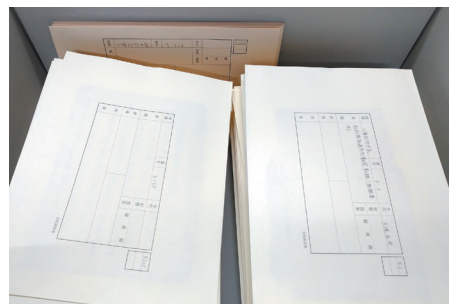
地域科学部の活動と成果

地域情報センター

URL <https://www1.gifu-u.ac.jp/~forest/rilc/>



地域情報センターには、岐阜県内の市町村(平成の合併前の市町村分類を含む)の様々な行政・歴史・伝承・文化・観光資料に加えて、500点以上の「水」関係の資料があります。「水」は「ヒト」を含む全ての生物の源であるという観点から、環境・生活・経済・工学・伝承というように、様々な視点から学際的に収集を行っています。特に、岐阜の地域資料として、清流「長良川」の河口堰建設や徳山ダム建設に関して、50年以上に渡る住民運動の具体的な動き、政治活動、海外環境団体の動き等3000点以上の資料を関係者から寄付していただき、整理しております。これらの資料項目は、一部個人情報を除き、HP上に掲載し、センターでの閲覧や貸し出しも行います。



また、岐阜県を中心とした東海地域の史料を収集・整理し、目録の作成も行っています。現在は、教育学部所蔵の「池田郡八幡村竹中家文書」の史料整理を進めています。竹中家は江戸時代、八幡村で庄屋をつとめた家で、5400点以上の史料群には、村の紛争や治水、中山道など、豊富な内容を含んでいます。年1回発行している『地域史料通信』では、史料整理を進める中で発見した、興味深い史料を紹介しています。姫君の輿入れと中山道をはじめ、長良川の境界論争や村と寺院の論争など、毎年ちがったテーマで史料を紹介しています。今後も、多くの皆様に地域史料の魅力をお伝えし、活用できるように、目録の作成と『通信』の発行を続けていきたいと思っております。

毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発

化学メーカーが医薬品や農薬、化粧品、添加剤等を対象として、有益な機能を持つ新しい化合物を開発して売り出すためには、法令やガイドラインに規定された毒性試験を通過しなければなりません。せっかく新しい化合物を開発しても毒性試験が通過できずに失敗する場合も多く、この経済的損失と環境負荷は、世界の化学業界全体で年間3000億円以上に上ると推計されます。

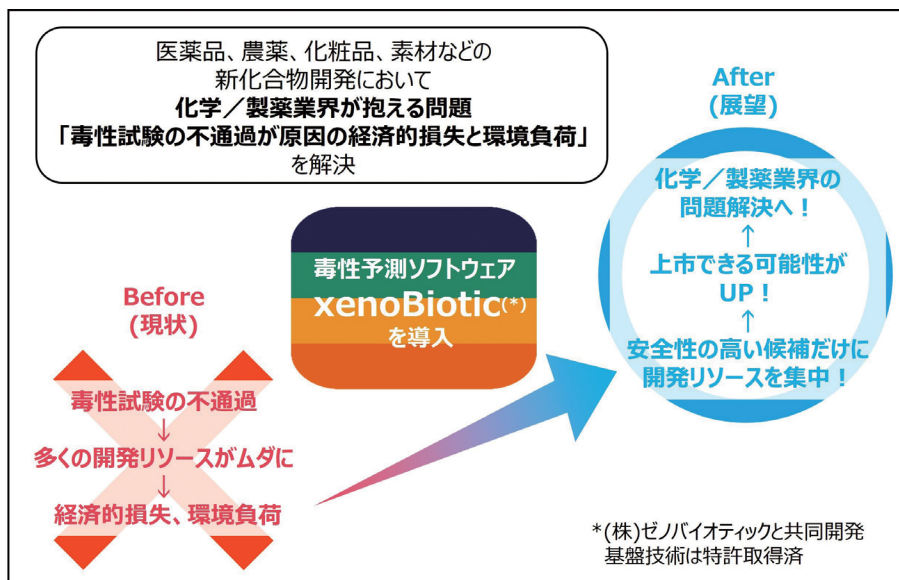
この課題を解決するために、私たちは新しい化合物の Ames試験(*)の結果が予測できる化学者向けの毒性予測ソフトウェア[xenoBiotic]を「岐阜大学発ベンチャー」に認定されたゼノバイオティック社(<https://xenobiotic.jp/>)と共同で開発しています。ソフトウェア開発にあたっての基盤技術については、特許を取得しています。

また、地域科学部教員5名で企画した「毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発の支援」は「地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト」の一つにも選定されています(図)。

2024年にxenoBioticの最後のβテスト(*)を実施して、化学メーカーに予測性能等を評価してもらいました。この評価結果を受けてxenoBioticを改良して、2025年7月にサービスの提供を開始いたしました。

※世界的に普及している標準の遺伝毒性試験。ネズミチフス菌4種と大腸菌1種の計5種の菌が、試験物質によってどの程度の突然変異を起こすかによって遺伝毒性の有無を判定する。

*製品をリリースする前の最終段階で行われるテスト。限られた数の組織外のテスト者が試用/評価する。βテストで得たフィードバックにもとづいて、製品の完成度を高めることが目的。



プロジェクト概念図(『地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト』冊子より)

岐阜大学公開講座（地域科学部企画）

地域科学部では研究成果を公開講座として高校生以上の一般の方々に提供しています。20年間にわたって講義形式のものから「まちあるき」体験のようなものまでバラエティーに富んだ企画を展開してきました。例年、参加者から知的好奇心を満たすことができたと好評を博しております。大学での学びに興味のある方なら、どなたでも無料で参加できますので、是非とも地域科学部の公開講座に足をお運びください。

今年度は次の内容で公開講座を開催します。講座内容は「働き方を考える～非正規率4割時代の非正規雇用の働き方」（労使関係論、社会政策）、「身近な現象から見る量子の世界」（物性物理学）、「越境する日本文学—海外で日本文学はどう読まれてきたのか」（日本近現代文学、日中比較文学）、「若者は日本社会をどのようにとらえているのか？ 青年期発達から考える」（発達心理学）などで準備を進めております。詳細は大学ホームページなどをご覧ください。



高校生のための街なかオープンカレッジ

「地域」が大学での学びの対象となることを体験し、地域での活動に興味をもってもらうため、地域科学部が主体となり、岐阜県の大学が共同で開催する「高校生のための街なかオープンカレッジ」を開催しています。

2025年は、10月に恵那市にてオープンカレッジを開催し、経営学、経済学、環境心理学、実践者等の視点を学び、フィールドワーク、ワークショップを通じてまちづくりなどのテーマについて、複数の専門家の見方を通じて、大学での学びを体験してもらいました。また、地域で活躍する団体の職員などの講義を受け、実際にまちあるきに繰り出し、地域活動の取組について話を聞くなどし、高校生たちが自ら気づくことができる時間になりました。その後のワークショップでは、まちづくりについて考えるとともに、大学での少人数の主体的な学びを体験することができました。

今年度も開催に向けて調整を進めておりますので、高校生のみなさんは是非ともご参加ください。

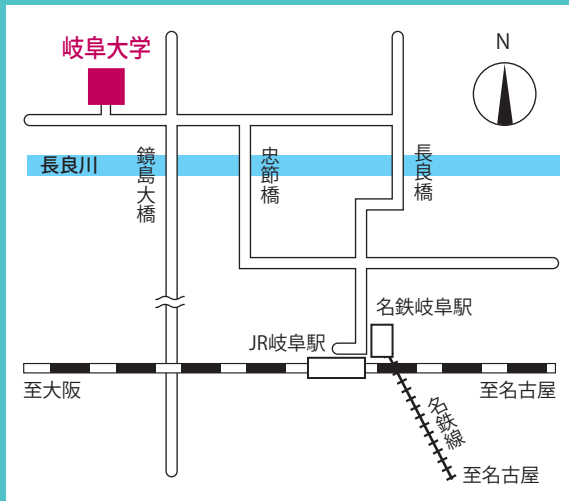


教員一覧

(2026年4月1日現在)

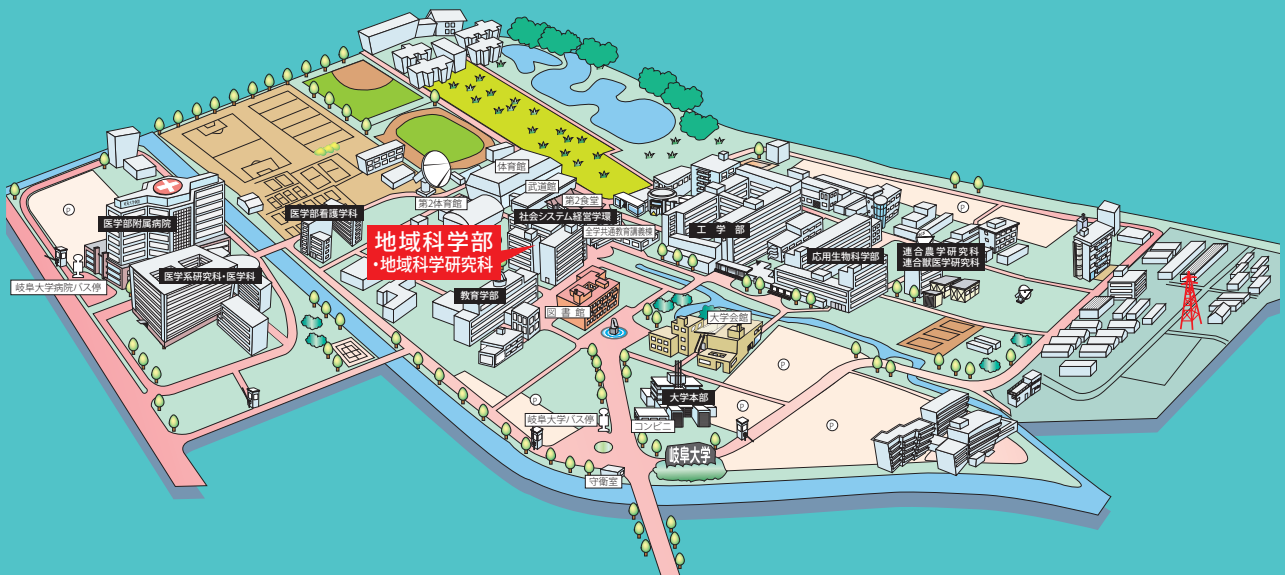
学科	講座	職位	教員名(専門分野)	研究内容のキーワード	
地域政策	地域政策	教授	山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性	
			河合 壘(法学)	雇用(労働)契約の終了、パワーハラスメント、安全配慮義務、契約自由の原則	
		准教授	小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR	
			三谷 晋(行政法)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟	
			柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化	
			小林 啓祐(経済史、都市計画史)	まちづくり 都市計画 社会基盤 受益者負担 住宅団地	
		助教	小牧 亮也(憲法学)	民営化、憲法の適用範囲、憲法規範の実現、公共性	
			鈴木 力(経済学、労務関係論)	労働組合、産業構造と働き方、労働政策、労働争議	
	地域環境	教授	大澤 圭吾(経済地理学、地場産業論)	地域経済、中小企業、繊維・アパレル産業	
			和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィクス、化学反応制御、溶液内の化学反応	
			應 江黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関わる経済問題	
			合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価	
			向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析	
			橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応	
		准教授	神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学	
			十二村佳樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS	
			助教	中塚 温(統計物理学)	量子モンテカルロ法、自由エネルギー、相対論効果
				内田 勝(18世紀英文学)	文化研究、ポップカルチャー、文化史、日常の中の物語
地域文化	教授	洞澤 伸(社会言語科学)	コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会		
		橋本永貞子(現代中国語学)	日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能		
		牧 秀樹(言語学)	生成文法		
		笠井 千勢(英語教育学)	第二言語習得論		
		フランクシュタイン、アレクサンドラ(ドイツ語)	ドイツ語		
	准教授	柴田 和宏(哲学史)	西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史		
		小林垂由美(20世紀アメリカ文学)	アメリカ文化、ジャズ・エイジ、ハーレム・ルネッサンス		
		助教	府川純一郎(社会哲学)	批判理論、承認論、自然倫理学・美学、善き生	
	魏 晨(日本近代文学、比較文学)		日本語文学、日中比較文学、アジア文化交流、児童文学と文化、文化の越境、翻訳		
	地域構造	教授	野原 仁(ジャーナリズム論)	メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現	
			南出 吉祥(生活指導論)	教育-福祉-労働、若者の自立、居場所、支援、貧困	
		准教授	伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力	
堀江 未央(文化人類学、地域研究)			家族、ジェンダー、移動、西南中国、少数民族		
講師		加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会		
助教		峰尾菜生子(心理学)	現在の社会と人間の心理、社会関係の中での発達、社会観、青年期の発達		
	水林 純(歴史学、日本史)	日本中世史、中世・近世移行期、戦国時代、村落史、地域社会、一揆			

Information



ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9、11番のりばから岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分 (JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、5番のりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分
- 東海環状自動車道「岐阜IC」から車で2分(2km)



お問合せ先

岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3326(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<https://www.rs.gifu-u.ac.jp/>